資料・金融緊急措置

終戦直後における「経済危機緊急対策」

大蔵省財政史室編

霞出版社

金融緊急措置における証紙貼付日本銀行券

証紙貼付千円券

証紙貼付二百円券

証紙貼付百円券

証紙貼付十円券

大蔵省印刷局 提供

序　文

昭和二〇年八月一五日、終戦のその日から、当時私が勤めていた内閣綜合計画局では経済の再建についての議論がたたかわされていた。そのとき、戦後早々にベルギーやオランダで行われたドラスチックな通貨切り換え措置などの実施状況が紹介されて話題になったことを記憶しているが、金融緊急措置の端緒のひとつがここにあったわけである。そのころから四十数年、この資料集の編集に際して大蔵省所蔵の資料ファイルのなかにそのときの配布書類があるのを見出して、思いをあらたにすることができた。

金融緊急措置は、昭和二一年二月に発動された「経済危機緊急対策」の中心をなすもので、とくに流通銀行券をほぼ全面的に預金させ、これを封鎖して銀行券の切り換えを行い、他方、財産税の課徴、その前提として個人・法人の金融資産の悉皆調査を行うというのは、今から考えてみても相当な荒仕事だったといえる。

国内のあらゆる経済主体がこの措置から無縁ではありえなかった。この措置の準備過程での機密は極めてよく保たれたが、それでもその風説が流れ、措置の適用逃れと思われる行為が横行して新聞紙上を賑わせた。それへの対応として、措置案の細目が手直しされたりした。また銀行券の新規印刷に代わる証紙貼付銀行券がでまわると、証紙の剝脱や偽造証紙出現等の事故が耳目を集めた。金融緊急措置は終戦直後の社会・経済秩序の崩壊の危機へのカウンター・メジャーとして用意されたものだが、それ自体が当時のわが国の社会と経済に大きな衝撃をもたらす歴史的事件だったのである。

大蔵省の歴史のなかでも、金融緊急措置は未曾有の経験だったが、極めて短期間に組織的かつ精力的に立案され、関係の法令や手続の細目が体系的に組み立てられ、そしてその実施もおおむね所期のとおり行われた。私はこの間、

金融緊急措置は、現に通用する券面金額五円以上の日本銀行券（旧券）の強制通用力を昭和21年３月２日限り失効せしめ、新たに用意する新様式の銀行券（新券）でおきかえるたてまえであったが、新券製造量が不足したため、特定の証紙を貼付した旧券を新券とみなして通用させることとした。証紙は千円、二百円、百円、十円の４種類印刷されて貼付され、銀行券と証紙の券面金額が相違するものは金額の低い方の額面の新券とみなされた。証紙の貼付はそれ自体非常措置であり、また精巧な偽造証紙が大量生産され、証紙剝脱事故も多発したため、みなし新券措置は21年10月31日限り停止された。

大蔵省物価部に在って、側面からこの金融緊急措置の立案から実施までの過程に参画することができたのである。

この百年に一度あるかどうかという緊急措置について、その立案から実施にいたる過程の正確な記録を残しておくことには、歴史的な研究のためにも、行政の参考としても、大きな意義があるものと思う。本書の特色は、その政策の形成過程に即して資料の構成をおこなったことであるが、それはそのことを可能にする資料源泉が存在したことに負うところが大きい。大蔵省の行政資料としても、途中経過をフォローして分析できるケースは稀なことであり、本書が金融緊急措置のすべてをカバーするわけではないが、この方面の研究の一層の深化に役立つことを望みたい。

本書は、大蔵省財政史編纂事業の一環として編集・刊行されるものであり、『昭和財政史―終戦から講和まで』（大蔵省財政史室編、全二〇巻）を補足する資料集としての性格を持つものである。同様の趣旨で『終戦直後の財政・金融・物価対策―戦後通貨物価対策委員会の記録』が既に刊行されている。本書を繙くに当たってはこれらの著作もあわせて参照して頂ければ幸いである。

昭和六二年三月

大蔵省財政史編さん顧問　谷村　裕

刊行によせて

お茶の水女子大学教授　中村　隆英

大蔵省財政史室編『昭和財政史―終戦から講和まで』第一二巻「金融(上)」には、拙稿「金融政策」が収められている。この原稿を作成したのは、昭和四九年から、五〇年の夏にかけてであった。暇を見つけては大蔵省財政史室に通い、資料を見ながら執筆をつづけて、この原稿を書きあげたとき、本当にホッとしたことは、今も記憶に鮮やかである。

この作業にあたって、何よりも問題だったのは資料の不足であった。執筆の時期が切迫しているのに、重要な問題でありながら、全く通りいっぺんの法令や調査しかないということさえあって、金融緊急措置はその最大の難関の一つであった。

そのとき、元大蔵大臣故愛知揆一氏の御遺族から、愛知氏の大蔵省時代の大量の資料が財政史室に寄贈され、直ちにその整理がはじめられた。五十あまりの段ボール箱にいっぱいの文書は、まさに宝の山であった。この資料集に収められた金融緊急措置についての綴り込み一一冊の発見は、私にとっては、ほんとうに金鉱に掘り当ったように思われた。私は、それを貪り読み、前後の脈絡をたどることによって、この政策の発想、立案、決定、実施に至る過程をつぶさに辿ってみることができた。研究者にとって、それは本当に至幸の時間であった。「金融政策」第二章金融緊急